

# 自民党は溶けて行く

## 党大会はお通夜状態

政治アナリスト  
元杏林大学教授

豊島典雄

### 自民は生き延びる？

麻生太郎副総裁が3月16日の自民党全国幹事長会議で「自民党は生き延びる」と語った。

「我々の問題を我々の先輩は乗り越え、党は生き延びてきた。変えるべきは変え、守るべきは守り続ける」。

歌手の小林旭さんのヒット曲にひっかけ「昔の名前で出ていますは自民党と共産党だけ。しよっちゅう名前が変わる政党と一緒にしないでもらいたい」と立憲民主党などをあてこすった。「党本部があり、職員がいて、定期刊行物を出し、食堂がある。これだけ、きちんとした政党はそんなにない」。

しかし、自民党は、派閥の政治資金パーティー収入不記載事件、青年局のピンクパーティー、広瀬めぐみ参院議員の不倫報道など、これでもかこれでもかと不祥事が続く。内閣支持率は超低空飛行である。

この自民党全国幹事長会議で地方代表の県会議員から

「地方は会社でいえば支店みたいなものだ。本店（＝党本部）がしっかりした道筋を作らないと、われわれ支店は持たない。ここはしっかりと連携して何でも情報共有してやるべきだ」という声が出た。

ある中堅は自民党大会について「お通夜状態だった。党一丸となって選挙を戦う雰囲気もない。『政治とカネ』を巡る問題でけじめがついていないからだ」と冷やかに語った（産経新聞、3月17日）。令和5年は党員が前年比3万人も減っている。

### 最高の政治技術者も不出馬

また、安倍首相から「党で最も政治的技術を持った方だ」と言われた二階俊博元幹事長が3月25日に次期総選挙への不出馬を表明した。政治資金規正法違反（虚偽記載の罪）で秘書の有罪

が確定し、二階派の元会計責任者も東京地検特捜部に在宅起訴されている。

「政治不信を招き深くお詫びする」と陳謝した。自民党はこのように溶けていく。

ポスト岸田の政治家も変化している。この自民党に救世主はいるのか？立憲民主党の枝野前代表は「次の衆院解散、総選挙時の自民党総裁は絶対に岸田文雄首相ではない。同氏で解散したら自滅だ。次の相手は女性首相だ」と語り、有力候補に上川外相の名を挙げて警戒感を示した。

ポスト岸田は「上川陽子対小池百合



最高の政治技術者も不出馬

子都知事」とか言う向きもある。緊急避難である。ポスト岸田は女の戦い？院政を目論む麻生太郎対菅義偉元首相の権力闘争とも評されている。自民党内は液状化し、視界不良である。

物価上昇と春闘での大幅賃上げとマインナス金利の解除と、経済に明るさが見えるが、内閣支持率は微増だ。

### 一強多弱から一嫌多弱へ

共同通信社の世論調査（3月10日）では、内閣支持率は20・1%（2月は24・5%）岸田内閣としては過去最低。不支持率64・4%（5・5ポイント増加）。自民党支持率は24・5%、2012年12月の政権復帰以降の最低。

NHK（3月11日）では、内閣支持率25%（25%）、不支持率57%（58%）。政党支持率は、自民党28・6%、立憲民主党6・8%、維新の会3・8%。

時事通信社（3月14日）では、内閣

支持率18%（1:1ポイント増加）、微増である。不支持率57・4%（3ポイント下落）。政党支持率では、自民党支持率17・7%（1:4ポイント改善）、立憲民主党4・7%、維新の会3・6%。

毎日新聞（3月17日）では、内閣支持率17%（14%）、不支持率77%（82%）。テレビ朝日（3月18日）では、内閣支持率20・9%（0:3ポイント増加）、不支持率61・1%（1:4ポイント増加）。政党支持率は、自民党35・5%、立憲民主党11・1%、維新の会7・5%。

朝日新聞（3月17日）では、内閣支持率22%（21%）、不支持率67%（65%）、政権復帰以降の最高。政党支持率は、自民党22%（21%）、立憲民主党6%（7%）、維新の会4%（4%）。次の自民党総裁にふさわしいのは、石破茂18%（18%）、小泉進次郎14%（17%）、上川陽子9%（5%）、河野太郎9%（11%）。

産経新聞（3月18日）では、内閣支持率23・2%（0:8%増加）、不支持率71・8%（0:7ポイント減）、政党支持率は、自民党支持率24・1%（0:7ポイント下落）、岸田内閣になって過去最低。次の自民党総裁にふさわしいのは、石破茂20・1%、小泉進次郎

15・1%、上川陽子8・4%。

日本経済新聞（3月24日）では、内閣支持率26%（25%）。不支持率66%（67%）、自民党支持率28%（25%）である。岸田総理にいつまで総理を続けたいかでは、直ちに交代してほしいが30%、9月の自民党総裁の任期満了まで56%、できるだけ長く10%。

読売新聞（3月24日）では、内閣支持率25%（24%）。不支持率62%（61%）、政党支持率では、自民党支持率23%（24%）、2012年の政権復帰以降の最低。立憲民主党8%（5%）、維新の会5%（4%）、無党派派51%（52%）自民党に対抗できる勢力として今の野党に期待できるかとたずねたが、期待できないが78%、期待できるは13%。次の自民党総裁に相応しい政治家は石破茂22%、小泉進次郎15%、上川陽子9%。

①政界は自民党のみが強い「一強多弱」から、自民党が嫌われる「一嫌多弱」へと変化している。  
②内閣支持率は微増だが、国民の内閣への信頼が回復したとは言えない。  
③ポスト岸田の政治家では突出した者はいないが、上川陽子外相への支持が

増えている。

自民党青年局のピンクパーティーもひどい。セクシーキャバクラみたいだとか。

お札を口移しした方もパーティーの企画者も世耕前参院幹事長の秘書や秘書上がり。企画した国会議員の離党で済むか。県議はダイバシテイ（多様性）とか屁理屈を語ったが、国民から「わけのわからない言い訳をして見苦しい」「乱痴気騒ぎするガキと同じ」との怒りの声が上がった。

役職を辞任した2人（青年局長、代理）の言い訳も苦しそう。問題は①女性を商品化している。  
②公費を使つてないというが、政党の台所は税金に依存している。  
自民党の収入は249億円、政党助成金依存度64・3%である。

### 早期解散に公明党も牽制球

公明党から衆院の早期解散を牽制する声が相次いでいる。

公明党の石井幹事長は3月10日、衆院解散総選挙について「秋がいちばん可能性が高いのではない」「秋の総裁選で選ばれた総裁は非常に支持率が高くなる」と指摘し、自民党総裁選直



国民の信頼を取り戻すような流れがない限り解散をすべきではない

後に衆院解散に踏み切るとの見通しを示した。「自民党総裁選後に総選挙」と公明党は言っています。岸田でなく、新しい人でということでしょう」（自民党関係者）。

公明党の山口代表も3月12日、首相官邸で岸田総理と会談した後「政治不信が極めて強く、内閣支持率も下がる一方という局面だ。国民の信頼を取り戻すような流れがない限り解散をすべきではない」と語った。首相の伝家の宝刀である解散権を縛る発言だ。「不人気政権と心中したくない」というのが公明党の本音である。

自民党の森山総務会長は3月12日に「解散は首相の専権事項。そのことに尽きる」というが、岸田首相の政権運営は綱渡りだ。